

新県立野球場の整備構想の概要



コンセプト

子どもたちが夢と希望を抱く野球場

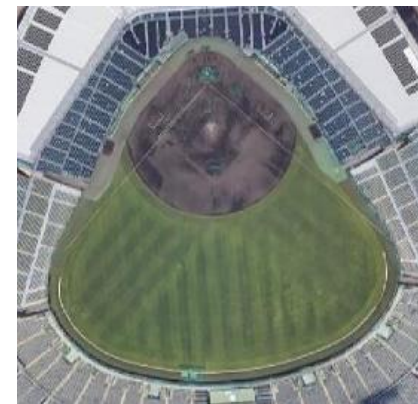
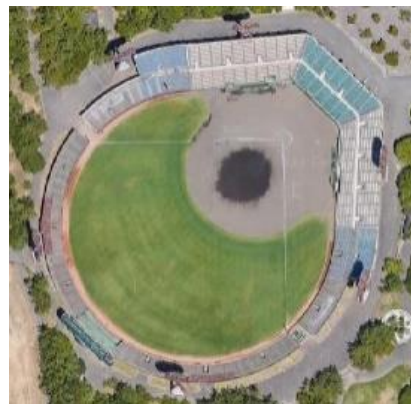
～「本県高校野球の聖地」に相応しいプレー環境を創出～

1 高校球児の憧れである阪神甲子園球場と同等のプレー環境の創出

- (1) **グラウンド** 甲子園と同じ広さ、形状(両翼95m、中堅118m)
→ 現在は、両翼91.5m、中堅122m
- (2) **芝・土** 甲子園と同じ、選手の負担が少ない天然芝(外野)と土(内野)を採用
- (3) **フェンス** 甲子園と同じ高さとし、内野フェンスを低くして、選手との一体感や臨場感を創出(内野1.3m、外野1.8m)
→ 現在は、内野2.0m、外野1.5m

現・県立野球場

阪神甲子園球場



2 座席数の拡大

現在の1.7万席から**5千席増となる、2.2万席**を設置

→ 本県の財政状況や他球場の状況を踏まえて、適正規模で整備

3 社会的ニーズへの対応

- (1) **ユニバーサルデザイン** エレベータ、多目的トイレ、車椅子用観覧スペース等の設置
- (2) **環境負荷の軽減** 太陽光発電設備、LED照明等の導入
- (3) **熱中症対策** 観客席上の屋根、選手待機スペースへの空調等の設置

4 賑わいの創出

- (1) **公園緑地と一体化** **外野席を芝生化**し、公園緑地とつなげることで、県民の日常利用を促進
- (2) **外野席下の活用** 子ども遊戯施設の整備など、交流空間としての活用を検討